

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2021年
7月発行

No. 182

Living Will

No. 182 2021年7月発行

発行 公益財団法人日本尊厳死協会

編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO

印刷 JPビズメール株式会社

映画監督
高橋伴明さん
女優
高橋恵子さん
ご夫妻
**最期は
自然な形がいい**

倉本聰氏が緊急提言
「そしてコージは死んだ」

○電話・メール医療相談の結果まとまる
○連載「四季の歌」ウミ



公益財団法人
日本尊厳死協会

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY



日本尊厳死協会の出版案内

好評
発売中!

最期の望みをかなえる リビングウイルノート

私の望む「痛くない死に方」がここにあります。

主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聰さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。
- 延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まった**エンディングノートの決定版**。
- 「旅立ったあとで～大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行: ブックマン社
定価: 1100円(税別) A4判104ページ

この「**リビングウイルノート**」には、
あなたの「**リビング・ウイル**」を入れるスペースがあります。
是非お手もとにセットで!!
もしもの時にそなえ、こころの「**生前整理**」を

協会事務局でお求めできます。1100円(税・送料込)。書籍名、お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。
代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8 太陽館ビル501)宛に。

最期は自然な形がいい

映画監督・高橋伴明さん
女優・高橋恵子さん
ご夫妻

そろって協会会員である高橋伴明監督と女優の高橋恵子さん。ご両親を看取られ、断捨離をし、自然とともにある暮らしを味わう日々の中で、最期のあり方について語ります。

インタビュー・構成／会報編集・郡司武
写真／水村孝

—— 最初から死についてお聞きするのなんですが、恵子さんのお父さんは波乱万丈な人生を送られたと、NHKの「ファミリヒストリー」で知りました。どんな人生で、最期はどんなでしたか。

恵子 父は亡くなって30年ほどになりますが、まさに波乱な人生だったと思います。福島県の須賀川というところで生まれ、祖父とともに北海道に新天地を求めて渡り、北海道東部の標茶^{しゅんちや}で酪農をはじめました。私はそこで生まれたんですが、その家も父と祖父で建てたと聞いています。牛7、8頭と馬や豚、鶏を飼い、ジャガイモなど

を作ったりといった生活でしたね。—— やがてその牧場を手放すことになるわけですね。

恵子 そうです。牛が死んだというのも理由ですが、跡とりの問題ですね。兄がいたんですが、生まれてすぐに脳性麻痺になり3歳で亡くなりました。それで跡を継ぐのは私しかいなくなったわけです。冷害とかいろいろなこともあり、まあ、酪農と言っても『ら』抜きの『く農』（苦悩）だよ」と父は言っていましたね。

—— そうでしたか。
恵子 そんなこともあり、父は転職を考えたんです。釧路に出て生

命保険の仕事を始めました。もともと歌が好きで、声楽家に習ったこともあったようです。俳優にもなりたかったとも言っていましたね。

「孫の顔が見られたのが嬉しかったみたい」

—— その思いを、愛娘である恵子さんに託したということですね。

恵子 まあ、そうですね。それで、それを実現したり教育を受けさせたりするには東京に出ないと、というところで、定年になったこともあり東京に移りました。そして近所の写真屋さんで中学2年の時、大映のカメラマンさんにスカウト

されたんです。何よりも親が喜びましたね。

—— その後の恵子さんのご活躍を見つつ、30年前に亡くなられたわけですね。

恵子 胃がんで、78歳でした。入院していたのは最期の1か月ほどでした。がんであることは本人には伝えていませんでした。

—— 当時は告知しませんでしたからね。周りの人は大変でしたね。

恵子 気づかれないようにしながら、治る方法をいろいろ探して回りましたが、結局、手術をしなくて亡くなりました。「手術しなくていいみたいよ」と言ったら、す



夢じゃないかと。

——よかったですね、伴明監督。
伴明 ふふふ、まあ、そうですね。

「帰ってくるなら 内緒で帰って来い、と」

——お母さんの最期はどんなでしたか。

恵子 6年前に89歳で亡くなりました。ずっと同居していたんですが、いろいろなところが弱り、やはり最期の1か月だけ入院しました。

——病名はなんでしたか。

恵子 誤嚥性肺炎がきっかけですね。前日も笑ってたんですよ、とお医者さんもおっしゃってたように、苦しい状態が続いての最期ではなかったですね。とても楽天的で豪快な明るい母でした。83歳の時でしたか、母が「元氣なうちに旅行に行きたい」と言い、「どこに行きたいの?」と聞くと「ベネチアに行きたい」と。ローマとベネチアに2人で8日間旅行しました。一緒にゴンドラに乗ったり……。それがすごく思い出に残っ

——自分の娘が希望通りの道を歩み、大成し……。

恵子 いやいや、そんな。——そういう姿を見ての最期ですから、お父さんとしては大往生ですよな。

恵子 まあ、孫の顔が見られたのがとても嬉しかったみたいですよ。

恵子 あら、そう。

伴明 もし帰ってくるようなことがあったら、内緒で帰って来い、と。

——ハハハ、そうでしたか。困りましたね。

伴明 奈良時代の友達が映画館で映画の手伝いみたいな仕事をしていて、ピンク映画にオレが出てると周りに言いふらし、それで母親が知ったみたいですな。

——助監督として名前が出てたんですよ?

伴明 いやいや、出演もしてたんです。というか出さされてたんです。

——「帰ってくるな」は、何年く

「意思を残しておけば、残される子どもも迷うことが少ないわけで……」



たかはし・ばんめい
1949年、奈良県生まれ。早稲田大学中退。大学時代からピンク映画の現場で活躍。1972年にピンク映画「婦女暴行脱走犯」で監督デビュー。1977年放送開始のテレビアニメ「ルパン三世」では脚本提供。代表作に「TATTOO <刺青>あり」「赤い玉、」など。京都造形芸術大学教授（映画学科長）を歴任。日本映画監督協会専務理事。



「娘に荘厳さを感じさせるだけの父の人生であり、最期だったのかな、と」

たみたいですね。

——伴明監督は、お父さんをだいぶ前に亡くされてますよね。

伴明 私が高2から高3になる時でしたから、もう53年になりますか。49歳、脳溢血でした。前日まで、晩酌に付き合っていました。

——え? 高校生ですよな。

伴明 まあ、中学の時から付き合っていましたから（笑い）。奈良で自動車整備関係の仕事をしていたんですが、宴会中に倒れたという連絡があって、その翌日に亡くなりました。びっくりですよ。こんなに早く逝くものかと思いましたね。それで大学に入るにも奨学金

んでいましたな。最期は、奈良で

倒れて、弟が名古屋にいる関係で名古屋の病院に入院し、集中治療室でした。車でよく行きましたが、会話はもうなかったですね。

「死ぬるということは ある意味いいわけですよ」

——お二人とも、そういうふうにご両親を看取られて、2018年10月に揃って尊厳死協会に入会されました。どんなお話し合いがあったんですか。

伴明 死を意識する年代になり、自分の死に方というのを考えるようになり、尊厳死協会の存在を知ったんです。たしか、映画（現在公開中の映画「痛くない死に方」）の話が出ていたところに、長尾さん（映画の原作者で尊厳死協会副理事長の長尾和宏）から聞いたのかな。

恵子 映画がきっかけで協会の存在を知って、それで入会したんだと思いますね。

伴明 そうだね。それで協会に電話して揃って入った記憶がありま

が必要となり、母親は華道を教えたりしていましたが、まあ、大変でした。

——入学当時、大学は学生運動のさなかでしたよね。

伴明 そう。行っただいいんですが、大学は授業はないし、学内はセクトが占拠しているし……。そうじゃないセクトの人間は学内に入れない。それでも、映画を助監督として撮り始めたんです。当時、ピンク映画と言われていたものですよ。

——お母さんは、どんな反応でしたか。

伴明 奈良に帰ってくるな、と。

——恵子さん、伴明さんから尊

厳死協会の話を聞いての感想はどうでしたか。

恵子 それは凄く大事なことでと思いますたね。死に直面した場合に、治る見込みがないのに必要以上の過剰な治療はしてほしくないわけですよ、ただ生き永らえるためだけの医療は。そういう思いを自分の自覚というか意思がしっかりしているうちに残しておくことはすごく大事なことでと思いますたね。これは、ずっと思っていたことです。ただ生き永らえる命に何の意味があるんだろうか、と。いつか死を迎えるし永久に生きることはできないわけですし……。死ぬるということはある意味、いいわけですよ。死ねないことのほうが辛いかもしれせんよね。自然な形であの世に行けるのいいなと思いますね。ですから、わりとすんなり受け入れました。

伴明 残される子どもも、本人の意思がしっかりわかっていれば迷うことが少ないわけで、そのほう

がむしろ大事なことですよね。

——お二人のお子さんには話しているんですか。

伴明 娘にはしたけど、息子にはしてないかなあ。

惠子 そうね、息子にはまだですね。しなきゃいけないいわね。

「断捨離するとチャレンジする空間が生まれ…」

——30年近く住まれた東京・国立の広い一軒家から都心のマンションに移られたということですが、これはどうしてですか。

伴明 私は京都の大学で教えるようになったので、通うのにより便利な恵比寿に一人で住み、京都にも部屋を借りてました。

惠子 10年間、毎週、通ってましたね。映画学科の学科長もしてましたよね。今は大学は辞めましたけど。

伴明 辞めてから二人で三番町（千代田区）のマンションに少し住み、その後、成城（世田谷区）に2年住みました。

惠子 国立はいいところですが、

郊外になりますから、仕事により便利な都心の三番町に移ったんです。

伴明 三番町はものすごく便利で良かったんです。しかし突然、ビルのないところに住みたいとなり、成城を探してきました。成城は、せいぜい2階建てでしたからね。

それで、それまで処分しないで持っていた国立の家を売ろうとしたら「更地にしないとなかなか売れないので」と言われ……。



惠子 30年も経つと、庭の木も大きくなりますよね。主人の母がお

花の先生でしたから、「ここには枝垂れ紅梅を植えたらい」とか言われて植えたりしたんです。ゆくゆくはこちらに来てもらおうと思ってきましたから。30年経つとその枝垂れ紅梅も見事な木に成長し……。それも伐らなくちゃならないのか、となつて。それはとても出来ないと思つたんです。けっきよく植物に心を動かされたんですね。

——植物が国立に呼び戻したんでしょうか。

惠子 不思議なことに、「じゃあ戻ろうかな」と国立の家に行つたときに、これまでなかった彼岸花が3つ花を咲かせていたんです。なんか、ご先祖さまが「またここに帰ってきてくれるのか、良かったあ」と喜んでくれているように思えたんです。

——そうかもしれませんね。

惠子 それで引越すたびに、モノを整理して断捨離したんです。

伴明 断捨離は、一種、気持ちの

いいものですよ。死ぬまでに整理しきりたいですよ。

惠子 整理すると同時に、新しいことにチャレンジできる空間が生まれるというか……。今、国立に住んで感じるのは、北海道の原野で生まれ育っていますので、鳥が来たりして鳴き声を聴くと癒される気持ちがありますね。これから、そんなに長い時間はありませんが、自然に触れることを大事にしながら暮らしていきたいと思っています。

——なるほど、そうですね。今日は、強い意思と前向きなお話、ありがとうございます。

インタビューを終えて

若い頃から無頼派のイメージが強い伴明監督を、温かく見守るような惠子さん。まさに「比翼連理」といった印象でした。ピンク映画時代の監督とお母さんとのエピソードには、可笑しみの中に、どこか、あの時代の懐かしい匂いが……。

会報編集・郡司 武

尊厳死の法制化に向け

超党派の議員連盟が再スタート

「終末期における本人意思尊重を考える議員連盟」が3月24日、再スタートを切りました。参加した国会議員は、自民党や立憲民主党など超党派で165人（以後、参加表明者が増え170人）。新しい会長に野田毅元自治大臣が就任し、「高齢化が急速に進む環境のなかで、医療の現場において、きわめて大事なテーマになってきている」とあいさつ。これまでの法制化の経緯をみると、当協会は1983年10月、「末期医療の特別措置法案」を国会請願しましたが、法案は時期尚早として審議未了。さらに2003年12月、

厚労相宛に「尊厳死の立法化」を求める請願

書を提出し、同時に衆参の全国会議員に立法化への協力を要請しました。これを受け、2005年4月に超党派からなる「尊厳死法制化を考える議員連盟」の設立総会が開かれ、両院議員60人が参加しました。その後2012年まで複数回にわたって法案を作成し発表、2015年に「本人意思に基づく、延命措置の不開始と中止」を内容とする法案に一本化しました。この法案は、終末期患者の意思を尊重して医師が医療の中止・不開始を行った場合、その医師の行為を免責するものとなっています。

今回の議連の素案にも、終末期の延命治療



あいさつする野田毅・新会長

の不開始または中止を「本人の意思を前提に」認める、という内容が盛り込まれています。本人意思と尊厳を最大限尊重した法整備が、再び動き出しました。

今回の再始動にあたり、日本尊厳死協会の鈴木裕也元副理事長が「国民の望む穏やかな看取りの実現に向けて」と題した講演を行い、法制化の必要性を訴えました。

日本財団の助成を受け「最期の医療のあり方」を考える支援事業をスタート

「最期はどうありたいか」について、人の思いは様々です。他の方々が経てきた多様なケース（事例）を、もし閲覧することができれば、今後の意思表明の助けになり、希望する医療（リビング・ウィル受容協力医師へのアクセスなど）につながることも可能ではない

か。

そのためのシステムを構築し、事例や医療にアクセスできるようにする事業で、対象となる方は、昨年1年間に「ご遺族アンケート」に回答された方や受容協力医師制度に登録されている医師。死亡時の病名や症状、年齢、

住所（市町村まで）、ご意見などのデータを収集抽出して行います（特定されないように十分に配慮）。個人情報保護は慎重に行いますが、ご自身（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は拒否できます。詳しくは協会のHPをごらんください。

そしてユージは死んだ

倉本聰

「延命」だけを金科玉条とし、「苦痛からの解放」というもう一つの大きな「医の使命」を忘れてはいまいか——。北海道・富良野の地で苦楽をともにしたスタッフの壮絶な最期の姿を前にし、脚本家・倉本聰さんが、「尊厳死とは何か」を、今あらためて、慟哭とともに告発する。



撮影・八重樫信之

親しい友人が癌で死んだ。
62歳。尊厳死協会の会員だったが、その会員証は何の役にも立たなかった。僕は今、悲しみと空しさ、怒りの中でこの文を書いている。

友人。ユージとだけ記しておこう。

ユージは僕の富良野塾の創設期からのスタッフであり、四十年近い付き合いになる。ログビルダーに憧れており、カナダにも修業にやり、こつこつと一人技を磨いて塾の建築のリーダーとなった。丸太小屋を含

む十数棟の家を作り、僕の今住んでいる石造りの住宅もアトリエと呼んでいる稽古場も全て彼の作りあげたものである。

九州男児。寡黙にして我慢強い、実にさわやかな男だった。

その彼が肺癌に冒されたのは、今から約二年半近く前のことである。既にステージ4と云われましたと、照れたような顔で報告に来た。後二年位が限界だそうです。

彼はその齢でまだ独身であり、自分の終の棲家となる家を一人コツコツと建ててい

る最中だった。だからその家で死にたいです、病院に入ることは絶対厭です。彼は通院して治療を受けながら、苦しさの間を盗んで自分の家を完成させようとした。僕は直ちに旭川の大学病院を紹介し、同時に、尊厳死協会への入会をすすめた。

富良野は人口二万二千。協会病院という総合病院があるが、ここには旭川の大学病院からの派遣医たちが主にとめている。

丁度数年前、「風のガーデン」という末期癌に冒された医師のドラマを僕は書いて

おり、その時膵臓癌のことと、緩和ケアの実情について、かなりの勉強を僕はしていた。殊に旭川の大学病院で緩和医療を主導

しておられるI先生という麻酔科の教授には台本の監修をお願いして親しくさせていただいていた。先生は既に停年を迎えて、札幌の病院に移っておられたのだが、そのお弟子さんが旭川の医大で緩和医療室を継いでおられたので、その方に話を通していただき、緩和ケアの専門家のいない富良野の病院の担当医と密な連絡をとっていた

くことにした。そういう形でユージは在宅のまま抗癌剤治療をし、調子の良い日はそれでも仕事を続けていた。

一年が過ぎ、二年目に入って抗癌剤の副作用が始めて、治療はステロイドに切り替わった。この頃から苦痛はかなりのレベルに昇っていたはずだ。だが、無口な彼は周囲に決して弱みを見せなかったから、不覚にも僕らはその苦痛の激しさを見逃した。

その年の十一月、突然彼は自殺を図った。刃物で首を二カ所切断し、死にきれず今度は電動ドリルを心臓に突き刺して穴を開けようとした。それでもうまく行かず、たまたま訪れた他のスタッフが血みどろの彼を発見し、救急車で搬送され一命をとりとめた。

僕は仰天し、旭川から飛んできてくれた緩和医療の担当の医師に、尊厳死協会の彼の会員証を示し、助からぬものなら麻薬を打って少なくとも彼を苦痛から楽にしてやってもらえないかと懇願した。

実は、

僕の義弟、妹の亭主は、骨髄癌で十数年前死んだ。彼らは大阪に住んでいたのだが、二人とも熱心なクリスチャンだった。骨髄の癌は想像を絶する苦しみに見舞われる。夫婦は丸二年間、強烈な苦痛と闘った挙句、二人で話し合い、有馬温泉にあるキリスト教系のホスピスに入る道を選択する。

ホスピスでは大量の麻薬を投与される。苦しみからは解放されるが、死は確実に覚悟せねばならぬ。彼らは話し合い、その道を選んだ。僕はその時初めて、ホスピスというものの存在を知った。

入院直後に有馬に見舞うと義弟の顔はそれまでと全くちがいが、信じられないくらい明るく転じて人が変わったようによくしゃべった。時には麻薬の副作用らしくトンチンカンな会話もまぎったが、苦しみは一切彼から消えていた。ウソみたいでしようと妹は云い、昨夜は夜中まで二人で賛美歌を歌ったの、と涙をかくして笑ってみせた。それから何と九か月も生きて、義弟は息を

引き取った。何とも和やかな死に顔だった。

その記憶が僕には強烈にあった。

だが富良野にはそういう施設はない。

北海道全てを見渡してみても、数えるほどしかホスピスはない。

大学病院の緩和ケアの先生は、判りましてと云ってくれた。それでも心配で内科の医師に相談した。その時返された医師の答えは、しかしまだ新薬が出来る望みもありますから最後まで希望を捨てないように、だった。札幌の麻酔科医に電話したら、今頃内科はまだそんなこと云ってるんですかと怒った。

86歳になり、死が現実のものとして近づいてきた今、僕は心底から考えている。

死はもう恐くない。だが苦しむのは絶対にいやだ！ホスピスが欲しい！誰か近くにホスピスを作ってくれないか！

一月、彼の癌は胃に転移した。

それでも彼は苦しみに耐えながら、在宅での闘病を懸命に闘っていた。

去年の十一月の自殺未遂が、彼自身に相当響いているようだった。自分の始末をつけれなかったこと、周囲に迷惑をかけてしまったこと、大きな恥をかいてしまったこと。

以前にも増して彼は無口になり、在宅のままステロイドの投与を受けていた。麻薬

の投与も始まっているらしかったが、彼の苦痛の表情からは明快な効果は認められなかった。

97から98あるべき血液中の酸素濃度がどんどん下がり、酸素ボンベは使っているものの彼の形相はどんどん変わっていった。

三月十四日。酸素濃度が60まで下がり、耐えかねた彼は救急車を呼んで、富良野協会病院に自分から入院した。

病院はコロナの臨戦態勢で、完全に面会禁止だったが、頼みこんで限定したスタッフの一名を、付き添いとして24時間、病室にはりつけてもらうことを許された。

何もすることの出来ない僕は、彼に長文の手紙を書いた。永い付き合いのこと、愉しかった思い出、そして感謝。最後に僕は今君の苦痛が一刻も早く去ることだけを祈っていると書いた。書きつつ今自分はまだ生きている本人に向かって弔詞を書いているという錯覚に陥った。

付き添いから翌朝電話があり、読み始めてコージはもう一枚目で泣き出して後が読めなかったという。そして最後の一行を読み終えると、先生は俺の気持ちを判ってくれてる」と呟いたようだ。

そのスタッフからいきなり電話で叩き起こされたのは十七日の午前一時である。コ

ージが苦しんで先生の名前を必死に呼んでいるからすぐ来てください！ということだった。夜勤の看護師さんには内緒で話を通してあります！



かけつけた時コージはベッドの上で、半分のたうちまわっていた。酸素吸入のマスクと鼻からの管が入っていたが、いくら吸っても酸素が体内に入っていないようだった。一息一息を全力で吸おうとして、声にならない声をあげていた。手を握ってやると握り返そうとしたが、その手に力も残っていないかった。労働で鍛え上げたコージの荒れた手を、僕は必死にさするだけだった。僕に向かって何か訴えるコージの声はもう声にならず、只胸を精いっぱい上下して空気を吸おうとする空しく荒い呼吸音だけが病室の空気を震わせていた。

血中酸素濃度は何と、40まで下がっていた！

楽にできませんか！何とか楽にしてやって下さい！看護師さんに懇願したが、看護師さんはさつきから既に枕元の機械のダイヤルをいじっていた。いじってはいたがコージの様態に変化はでなかった。夜勤の若い看護師さんにはそれ以上の麻薬の増量にふみこむ資格はないにちがいない。彼女たちには恐らくそれ以上の医療判断は許されていないのだ。僕は彼女たちに頼むことを諦め、コージの荒れた手を必死にさすりながら、空しい嘘を叫ぶしかなかった。

もう少しだ！もう少しがんばれ！もうじ

きすぐに楽になる！

コージは虚ろな目で天井を睨み、口に装填されたマスクをひっぺがし、荒い息を吸い、すぐまた口につけた。その動作を何度もくり返した。

こんなむごいことがあつていいのだろうか！鼻につき上げる涙をおさえながら心の中で僕は思っていた。

胃カメラを飲むという検査の時ですら、今病院では点滴によって意識のレベルを下げてくれ、全く苦痛なく挿管してくれる。今の医学はそこまで出来る、出来るはずなのに死を前にして彼はここまでたうちまわっている。彼の意識はすっかり生きている、生きて苦痛の極限にいる。医学は人命を救うことを究極の目的としているというが、今日の前にくり上げられていることは、人道的と果たして云えるのだろうか。楽にできるのにしてやらないこと、これは拷問であり、明らかに非人道的行為である。こんなむごいことが許されていいのだろうか！

2時間ほど彼の手をさすり続け、荒い呼吸音が少しおさまったのを見て、僕はもう居たたまれず病室を後にした。

家に帰っても眠れなかった。

「役に立たなかった」を正面から受け止め

「運次第」の現状を変えたい

4月16日（金）に当協会の顧問である倉本聰氏から電話があり、協会に入会しているご友人が苦痛の中で悲惨な亡くなり方をしたので、そのことを書きたい、という連絡を受けました。協会のリビング・ウイルが全く役に立たなかった、という話です。協会が毎年行うご遺族アンケートでも、毎回1割弱の方が「役に立たなかった」と答えています。その内容はさまざまですが、協会はこの事実を正面から受け止め、倉本氏の許可を得てここに直筆原稿を公開し、以下、協会としてのメッセージを述べます。

役に立たなかった理由として、倉本氏は「僕のもっともひっかかるのは人命尊重という古来の四字を未だに唯一の金科玉条とし、

苦痛からの解放というもう一つの大きな使命であるはずの医学の自分というものを、医が忘れてはいまいかということである」と記しています。倉本氏が指摘する「医学という一つの学問の中の思考のあやまり、いわば哲学の欠如」によるという事実は、私たちも看過できません。

協会は創立以来45年間、国民が自分の最期を考えてその希望を表明する「リビング・ウイル」終末期における事前指示書」を発行し、同時に協会の理念を理解するリビング・ウイル受容協力医師の登録活動を続けてきました。しかしながら、いまだ皆が安心できる状況には必ずしも至っておらず、協会の理念に賛同し、かつ医療的な技術も併せ持つ医師に出会うことは

「運次第」ということが少なからずあるのが現状です。

リビング・ウイルを所持し、それを医療者に伝えるという可能な限りの準備をしても、それを受け取る側がはるか彼方、別の世界にいるのでは、いつまでたっても患者は安心して最期を迎えることができません。「患者の権利法」も「尊厳死法」もない今の日本で、制度としての人生会議（ACP）を推し進めるには、国民の意識を高めるのと同時に、医療者側の意識と質も同時に高めていかなければ意味がありません。

もはや死を過度にタブー視することなく、自分の最期の希望について話せる文化が根付きつつあります。協会は全ての国民が安心して安らかな最期を迎えることのできる社会の実現を目指し、国会議員、医療界、医学教育界に向けて、より一層、声を上げ、活動を進めていく所存です。

公益財団法人 日本尊厳死協会
理事長 岩尾總一郎

様々なことが頭に飛来した。

86年人生を生きて様々な死に僕は立ち会っている。祖父の死、父の死、祖母の死、伯母の死、それぞれがそれなりの苦しみを経て、最後の息を必死で吸おうとし、それが吸えなくて息絶えた。だが今回のコージの姿は、かつて見た中で類のない程、凄惨で残酷な時間だった。

これは僻地の病院の事件で、しかも深夜の出来事であり、更にはコロナで逼迫し疲弊し果てている医療態勢の中でのことだったから致し方のないことだったのだろうか。僕にはそうは思えなかった。

断っておくが、その晩必死で対応してくれた看護師、遠くから指示を出してくれた医師、それらの医療関係者の対応を責めるつもりは毛頭ない。

僕のもっともひっかかるのは人命尊重という古来の四文字を未だに唯一の金科玉条とし、苦痛からの解放というもう一つの大きな使命であるはずの医学の本分というものを、医が忘れてはいまいかということである。

人工呼吸、胃ろう、透析、エクモ、エトセトラ。医学は目を見張る進歩を遂げ人の生命を永びかせた。その功績は無論認める。しかし命を永びかせる、そのことに余りに

こだわりすぎたため、植物人間の存在を生み、物理的生存を重視するあまり、たとえば尊厳死、安楽死の問題をタブーという檻の中に閉じ込めて真剣な議論の俎上にすらのせないで逃げている、そのことに僕は異和感を感じる。

果たして医は、そういうものでいいのだろうか。

たとえばコロナによる医療崩壊。入る病院が見つからなくて救急車で何軒もたらい回しにされ、あるいは医師の手に触れることも叶わず家庭で死を迎える不幸な患者。彼らはどんな死と対面するのだろうか。それはやっぱりコージのような、のたうち回っての死になるのだろうか。

医学にその技術がないなら仕方ない。しかしあるのに使ってもらえない。意識のレベルを下げるのができるのに延命のためにそれをを用いない。そういう延命はごめん蒙りたい。苦しさから解放され、一気に死にたい。そのために僕は、尊厳死協会に入会している。コージもまたそのために入会していた。

その日の昼すぎ、コージはやつと息を引き取った。

よかった！

おつかれ様！

という言葉しか、僕の頭には浮かばなかった。

四十数年前、富良野に移住を決意したとき、一番先に僕のしたことは、町を歩いて病院の所在を確認したことである。

町の中央にさほど大きくない、富良野協会病院という総合病院があった。それは都会で見ると近代的な大病院ではなく、おそらく設備や医療のレベルも最先端の都会のものに比べて何年か遅れたものだろうと思われたが、ここに移住を決意した以上、何年か遅れの医療の基準で命を終えれば良いのだと覚悟した。

今その病院は建て直されて、四十数年前とは比較にならない設備と医療を備えた新しいものに生まれ変わっている。

だがその病院で僕はコージの、最後の日の苦しみに立ち会ったのである。

それが僻地の病院だからとは、僕は断じて思わない。

それは医療の進歩とは関係ない、医学という一つの学問の中の思考のあやまり、いわば哲学の欠如である気がする。

そのことに僕は今、口惜しさと怒りを噛みしめている。

(了)

協会の理事・顧問医はこう考える

求められる緩和ケアチームの存在

協会理事・クリニック院長

満岡 聰さん

在宅緩和ケアを行っている自分ならどういう治療をしたかについて述べます。抗がん剤の治療がだんだん効かなくなってきたら、積極的な治療から緩和ケアへ比重を移していくのが普通です。ある日突然、緩和ケアへ切り替えるのではなく、がんが判明した時から緩和ケアを始めます。身体的のみならず精神的・社会的苦痛、そしてスピリチュアルペインに対応するということです。

コージさんの場合、自殺を図ったことから、死んだほうがマシと思えるような苦痛があったのだと推察します。肺がんや転移性肺がんは呼吸器官としての肺の機能が損なわれていくため、呼吸苦が出てくることは避けられませんが、その場合、本人やご家族と話し合いの上で鎮静を行い、眠らせるということを行います。そうしてお話し合いはあったのだろうかと思いました。

スピリチュアルペインは、3つの存在が脅かされた時に生じる痛みといえます。自律存在（自分で決めて行うことができる）、時間存在（先への希望

いけなさと改めて思いました。

東北支部顧問・緩和ケア医
加藤佳子さん

倉本さんのメッセージについて、私の意見を3つにまとめてみました。

- ・コージさんから「肺がんでステージ4」と報告された時から、最期を見すえた対応を考えるべきであったと思います。まず大学病院の緩和ケアに相談するだけでなく、地域の医療資源の利用についてもっと考慮したほうがよかったです。コージさんも「その家で死にたいです。病院に入ることは厭」と言っていますので。

- ・「尊厳死協会に入会してから安心」という会員がありますが、医療の現場では、尊厳死協会の会員というだけではあまり役に立ちません。やはり「リビング・ウィルの宣言書」に基づいて「人生会議」を行い、詳しい手順を決める必要があります。コージさんの場合、副作用のため抗がん剤を止めた時がチャンスでした。

- ・コージさんと緩和ケアチームとの関わりはあったのでしょうか。緩和ケアや緩和医療はがんだけでなく、どんな病気でも行われなければならない「医療の根源」です。従って希望する医療を受けるためには、患者自らが緩和ケアを早期から積極的に求める必要があります。緩和ケアは、医療者以外

協会顧問医・クリニック院長
野村良彦さん

コージさんのようなステージ4の肺がんの患者さんに、抗がん剤治療を当然のように行うことは、本人にとってみれば「希望」ではなく拷問のように身体にダメージを受けるものなのです。せめて、抗がん治療と同時に十分な緩和医療が行われていれば、苦痛は少しでも軽減できていたのではないでしょう。か。ステージ4に抗がん剤を使えば、食不振、全身倦怠、貧血、脱毛、白血球減少による感染等々の症状が出現し、「死んでもいいから止めてほしい」という人さえます。ですから肺がんのステージ4は、抗がん剤が優先されるべきものではありません。

日本でホスピスといえば「緩和医療をしてくれる病院付属の建物」という位置づけになっています。ところがホスピスの本来の意味は、「看取りの哲学（考え方）」であり、建物や施設を意味するものではありません。コージさんは並外れた思い入れで、ご自身の家を建てられました。ですから、ホスピスケアの哲学に則ったケアを最期まで「彼の家」で行うべきだったと思います。

季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

——その風景と背景

第十七回

ウミ

●文部省唱歌

ウミハ ヒロイナ、
大キイナ、
ツキガ ノボルシ、
日ガ シズム。
ウミハ 大ナミ、
アオイ ナミ、
ユレテ ドコマデ
ツツクヤラ。

ウミニ オフネヲ
ウカバシテ、
イツテ ミタイナ、
ヨソノ クニ。

（『ウタノホン（上）』昭16・3）より

海に向かって大きく息を吸う。大海原をわたる風とともに潮の香りが鼻に届く——。この歌を口ずさむと、幼き頃のあの海の記憶がよみがえってくるようだ。海は広いな、大きいな……。文部省唱歌だが、作詞は林柳波（1892～1974年）、作曲は井上たけし（1894～1974年）。二人とも「海なし県」群馬の出身。赤城山の北と南で生まれ、同じ年に亡くなっている。

この唱歌が生まれた年の暮れ、太平洋戦争が始まる。戦時色が濃くなるなかで、児童、学童と呼ばれた子どもたちは「少国民」とされ、尋常小学校は国民学校に。当時、1年生でカタカナ、2年生で平仮名を学習するという教育方針のためカタカナの歌詞になっている。そんな空気の中で詠まれた3番の「イツテ ミタイナ、ヨソノ クニ」は海国日本の軍国教育に沿った歌詞ともいわれるようだが、「ウミニ オフネヲ ウカバシテ」と、笹舟のようなイメージに敢えてしたこと、当時の軍指導部の検定をかわしたのではないかと、ともされる。2007年、「日本の歌百選」に選ばれている。

21年度事業計画・予算決まる

終末期についての調査研究活動を強化
— コロナ禍での事業費大幅減少と多額の寄付



公益財団法人日本尊厳死協会の2021年度の事業計画および収支予算などが、3月13日にオンライン会議にて開催された理事会で決まりました。2020年度の決算案は、6月12日に開かれたオンライン会議の評議員会で審議され、了承されました。

岩尾総一郎理事長は、今年度について、「昨年4月に公益法人として新たなスタートを切り、普及・啓発活動をより一層充実させて進めるべく予定していたが、コロナによる緊急事態宣言や自粛要請で講演会など支部活動の中止に追い込まれた。協会としては活動が停滞しないように、本部から理事による動画配信をスタートさせて対応している。さらに、終末期についての調査研究活動にも一層、

日本尊厳死協会の決算・予算書(要約)

単位：円 △はマイナス			
科目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	144,651,000	140,785,200	139,263,000
受取寄付金	5,205,000	15,518,651	8,071,000
受取補助金等	—	—	2,980,000
雑収益	1,911,000	5,707,634	1,908,000
その他収益	51,000	55,807	51,000
経常収益計	151,818,000	162,067,292	152,273,000
(2) 経常費用			
事業費	140,941,240	125,111,051	144,218,000
管理費	31,357,000	23,255,914	24,502,000
経常費用計	172,298,240	148,366,965	168,720,000
当期経常増減額	△ 20,480,240	13,700,327	△ 16,447,000
2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	△ 20,480,240	13,700,327	△ 16,447,000
一般正味財産期首残高	601,122,296	613,849,225	613,849,225
一般正味財産期末残高	580,642,056	627,549,552	597,402,225
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
① 特定資産運用益	1,000	28	1,000
② 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	1,000	28	1,000
指定正味財産期首残高	2,846,116	2,846,116	2,846,116
指定正味財産期末残高	2,847,116	2,846,144	2,847,116
Ⅲ 正味財産期末残高	583,489,172	630,395,696	600,249,341

力を注いでいきたい」としています。

会員数の現況

2020年度末の会員数は10万645人で、前年度に比べ5563人の減少。昨年は約3000人、その前年が1000人の減少でしたから、会員減少傾向は悪化しています。新入会者数は2664人で前年度に比べ2610人の減少。退会者(死亡・会費3年未納除籍など)は8227人(前年度は8221人)でした。コロナによる普及・啓発活動の停滞などが要因の一つと考えられます。新入会者で最も多かったのは70歳代(約39%)で、ここ10年以上、変わっていません。5年ごとの新入会者の平均年齢は

1976年〜80年は約57歳でしたが、2016年〜2020年には約72歳になっています。

事業報告と計画

①LWの普及啓発事業、②登録管理事業、③調査研究及び提言事業、が事業の3つの柱。①の活動は、コロナによる緊急事態宣言、自粛要請により、20年度の講演会、セミナー及び出前講座は回数が62回、参加者数が636人(前年度は199回、8067人)でした。こうした環境下の中、オンラインでの普及・研究活動、動画配信も始まりました。受容協力医師の登録数は2012人でわずかに24人の増加。事業計画の2393人には遠く及びませんでした。電

話医療相談は受電件数が557件、相談内容が1313件(前年度は500件、1182件)でした。コロナ禍の中、メンタル面の相談が増え、電話医療相談の存在意義、重要性はさらに高まってきた。②は「会員数の現況」を参照。③の活動として、外部有識者と協会役員からなる「LW検討委員会」の答申が出され、定款改定、LW改定及び協会の今後の戦略等について、21年度の理事会から議論を始めることになりました。また日本財団の助成を受け、「最期の医療のあり方」を考える支援事業もスタートしました。

20年度決算

2048万円の赤字予算でしたが、1370万円の黒字でした。コロナ禍での活動自粛などによる事業費の大幅減少に加え、前年度の2倍を超える1552万円の寄付があったことなどによるものです。なお、今年度の協会役員は左掲の通りです。

2021年度
日本尊厳死協会役員等名簿

【顧問】	
牛尾治朗	ウシオ電機株式会社名誉相談役
扇 千景	元参議院議長
奥田 碩	元トヨタ自動車株式会社会長
倉本 聰	脚本家・作家
小泉純一郎	元首相
吉永みち子	作家

【代表理事】	
岩尾総一郎	医師、元厚生労働省医政局長

【副理事長】	
長尾和宏	医師、医療法人裕和会理事長
野元正弘	医師、愛媛大学客員教授

【専務理事】	
北村義浩	医師、日本医科大学特任教授

【理事】	
安達俊郎	会社役員
小川純人	医師、東京大学大学院准教授
川名理恵子	公益財団法人常務理事
神田 麻	弁護士
近藤和子	看護師、マザーリング&ライフマネージメント研究所所長
丹澤太良	公益社団法人理事
友納理緒	弁護士、看護師、土肥法律事務所
満岡 聡	医師、医療法人満岡内科クリニック理事長

【監事】	
大月将幸	公認会計士、弁護士 大月公認会計士事務所代表、 LL&P総合法律事務所代表
藤嶋 喬	元会社役員
茂木敬司	会社役員

【評議員】	
相澤好治	医師、北里大学名誉教授
伊勢田暁子	看護師、 衆議院議員政策担当秘書
北村 聖	医師、公益社団法人地域医療 振興協会シニアアドバイザー
鳥海房枝	保健師、 NPOメィアイヘルプユ-理事
信友浩一	医師、九州大学名誉教授
丸尾多重子	NPOつどい場 「さくらちゃん」理事長
宮島俊彦	岡山大学客員教授

【支部長】	
宮本礼子	医師、江別すずらん病院認知症 疾患医療センター長(北海道)
阿見孝雄	元東北支部副支部長(東北)
丹澤太良	理事、公益社団法人理事 (関東甲信越)
野嶋庸平	新聞社事業委員(東海北陸)
長尾和宏	副理事長、医師、 医療法人裕和会理事長(関西)
正木文治	株式会社代表取締役(中国地方)
西口 潤	医師 医療法人社団愛和会 あさひクリニック院長(四国)
白髭 豊	医師 医療法人白髭内科医院 院長、長崎在宅Dr.ネット副理 事長(九州)

LWのひろば

遠距離介護のなかで

清水陽子 76歳 東京都

17年ほど前、遠方に住む父の介護に思い始めました。しばらくして、それを知った知人から「死に臨んでも自分の思いを伝える方法がある」と言われ、尊厳死協会という存在を教えられました。そして私たち夫婦は、14年前、尊厳死協会に入会しました。父にも協会の趣旨を伝え、と、「オレの思いと同じ」と言って、すぐに入会しました。

その後、父は老人ホームに入り病気になるまで、ホームの係りの方に、父が尊厳死協会の会員であることを伝え、カードをお見せしました。その方は「これさえあれば大丈夫」と言ってくれました。協会のことを「存じだったようです。そしてある日の早朝、父の介護

に向かう電車のなかで携帯電話がなりました。父が突然倒れ病院に運ばれたとのこと。電話口で医師から「延命治療をしますか」と言われ、「しなくていいです」と即座に答えました。旅立った父の顔は安らかでした。

6年におよぶ遠距離介護が終わり、父の最期には間に合いませんでしたが、協会に入会するときに父の気持ちを聞いたことが私の気持ちを慰めてくれました。後悔のない介護の終わりに感謝しました。

カードは何だったのか

松井嵯峨 91歳 神奈川県

私たち夫婦は7年ほど前に入会させていただきました。かかりつけ医も受容協力医であり、すぐに医師にカードのあることを伝えました。昨年4月、67年連れ添った夫は、

13年8か月の介護の末に亡くなりました。当然、楽に逝かせてもらえなかったものと思っていました。直前に友人の夫が、がんでモルヒネにより眠るように死んだことを聞いていたので、「そのようにしてもらえませんか」と質問したら「できない」と医師に言われて、為すすべもなく亡くなり、看取った私は、後悔と悲しみに暮れています。

夫は突然発熱し、膀胱炎か、いや誤嚥性の肺炎だ、となり酸素吸入をしました。が、「苦しい、苦しい」と叫び、私は体をさすることしかできませんでした。かかりつけ医が「入院を」と言いますので、「えっ、カードを伝えていたのに何で?」この自宅で看取ります」と言いました。

夫は脳溢血の後遺症で長年、生きる希望もないようでしたが、それなりに穏やかに暮らしており、た。それなのに最後はこんなに苦しむのか、と神仏への不信感でいっぱいでした。一周忌を過ぎた今も、あのカードは何だったのかと悔やまします。リビング・ウィルの(2)に「私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください」と書いてある

ご飯がおいしいのは……

高橋三千子 90歳 兵庫県

私は90歳になりますので、外出先でもしものことがあっても身元がすぐわかるようにと、尊厳死協会のカードを持ち歩いています。先日、何気なくカードを裏返して、2002年入会だったと知りました。

夫は脳出血で倒れて意識が戻らなまま亡くなりました。担当医に「餓死させるには忍びない」と言われ、胃ろうの手術をして5か月ほど生き延びました。当時は胃ろうも断ることのできない時代、ひと月でも余命を延ばすのが医療の使命とされていた。私は延命措置は施してもらいたくないとの希いから尊厳死協会に入会したのだっと思ひます。

一人暮らしになって、両隣から「お困りのことは何でもおっしゃって」と言われ、戸建てに住む独居老人は、近所はもちろん自治会、民生委員、老人会も放っておけないのだと気づき、老人ホームに移りました。まだ

清らかに
東京・上野公園の
不忍池の蓮(7月)
撮影/谷島輝雄(東京都)



身の回りのことはできますが、動けなくなったら居室で最期を迎えたい、と届けてあります。念のため、リビング・ウィルの「私の希望表明書」も切り取って玄関に置いてあります。ご飯がおいしいのは、体がまだ生きるつもりなんだ、と残り少ない日々を大切に過ごしている昨今です。

がんと3度闘いつつ……

野村香織 84歳 東京都

65歳で定年を迎える数年前、定期検診で胃がんが見つかり、胃を全摘出しました。ところが1年もしないうちに今度は耳下腺にがんが見つかり、自分の最期に思いを馳せ、尊厳死協会に入会しました。

それからは待ち望んでいた山歩きを楽しみました。「日本百名山」の半分は登り、スイス・アルプスやネパール・ヒマラヤの山麓にも行きました。そんな余生を十数年楽しんでいるうちに、今度は三度目のがん、悪性リンパ腫に。療養は2年余にもなり、その間ベッド生活を余儀なくされ、腹筋が弱って歩けなくなり、ました。今や「要介護4」の身。訪問介護のお世話になっています。

このところ身動きも何とかなるようになり、食欲もあり健康状態は良好です。陽気のいい日は、カミさんに付き添ってもらい、歩く「練習」をしています。医師から最近、「病状も回復基調にあるのでベッドで横になる時間を減らしてください」と忠告され、意識的にベッドから出るように努めている日々です。

編集部より

●投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でも構いません。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.or.jp)で。

●写真の募集 10月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは8月15日です。

※ホームページにも掲載させていただきますので、ご了承ください。

お力をお貸しください!

会員の方々から「ひろば」への投稿やメールで、当協会のPR不足が残念」といった声が届いています。「声かけに協力します」と申し出てくださる方もあります。協会では入会勧誘のチラシ(写真)を用意しておりますので、送り先と枚数を協会本部までお知らせいただければ、すぐにお送りいたします。会員のみならず、お力をお貸しください。



東海北陸支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.or.jp

「リビング・ウイユ交流サロン」を各県で開催

名古屋市内で隔月開催している「地域サロン」を、『リビング・ウイユ交流サロン』に名称を統一して東海北陸支部の各県で開催していきます。

サロンは、当支部理事を交じえて、介護、医療にまつわる問題を気軽に話し合い、一緒に考えていく催しです。各回先着10人（事前申し込み）

【岐阜】8月1日（日）午後1時半～3時。じゅうろくプラザ（岐阜市、JR岐阜駅から徒歩2分）

【愛知】8月24日（火）午後1時半～3時。青木記念ホール（名古屋市中村区、地下鉄東山線中村公園駅から徒歩5分）

【三重】9月18日（土）午前10時半～12時。健やか薬局中川店（松阪市、近鉄伊勢中川駅から徒歩3分）

中国地方支部

☎ 082-244-2039 ✉ chugoku@songenshi-kyokai.or.jp

「黄昏時の診察室」書籍化のご紹介

中国地方支部理事の松本祐二医師が、人生の「黄昏時」を迎えた患者に向き合う日々の体験や思いを、山陰中央新報家庭面や石見版に連載したものに一部修正を加えてまとめたもの。タイトルは「寄り添い思う診療日誌」（いわみ談話室から）。定価1100円（税・送料込み）。アマゾンなどの書籍販売サイトからの購入が便利です。

LW受容協力医師ご紹介の依頼

すでにLW受容協力医としてご登録いただいている方へ、新たな協力医師をご紹介いただきたい旨のお願い文を支部より発信しております。また、会員の皆さんのかかりつけ医がまだLW受容協力医としてご登録されていなければ、協会から登録依頼を試みますので、是非ご紹介ください。

※広島県下への緊急事態宣言発出時には、支部事務局に職員が不在となる場合があります。電話が繋がらない場合は、支部（全国共通）フリーダイヤル（0120-211-315）にお問い合わせください。

四国支部

☎ 087-833-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.or.jp

四国支部・愛媛ではコロナ禍の中、2つの啓蒙活動を行いました。①講演会の内容をケーブルテレビで放映。松山市が毎年企画する市民分科会（コムズフェスティバル）で2月、愛媛県理事2人による講演会を開催し、複数回、ケーブルテレビで放映していただきま

した。②出前講座を行いました。5月に薬師神芳洋・愛媛県会長により「がん治療とリビング・ウイユ」と題した勉強会が開催されました。この勉強会は「終活サポートアドバイザー」に対して四国支部愛媛が定期的に行っているもの。

地域のみなさんへ

リビング・ウイユ「出前講座」はいかがですか

●ご依頼により講師を派遣します ●会場のご用意をお願いします ●お問い合わせは支部までどうぞ

医療相談
(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日
午後1時～5時
(変更あり)

協会本部で、お電話お待ちしております。ご遠慮なく、どうぞ！

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員（看護師）が丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

医療相談は、協会が最も重視している会員向けの無料サービスですが、一般の方でもご利用いただけます。会員・未会員は確認させていただきます。お電話をお待ちしています。

協会宛メール（✉ info@songenshi-kyokai.or.jp）でも受けつけております。

会員になってもLWの勉強は続きます ぜひご参加を

（事前にお問い合わせを）

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、支部の催し物の開催が中止になる場合がございますので、事前に各支部にお問い合わせくださいますよう、お願いいたします。なお、ご来場の際は、ご自宅での検温およびマスクの着用にご協力をお願いいたします。

北海道支部

☎ 0120-211-315 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.or.jp

支部長就任のごあいさつ

これまで内科医として、高齢者の身体疾患と認知症疾患に長年携わってまいりました。また、2012年からは毎年札幌で「高齢者の終末期医療を考える会」を開催してきました。今後は、誰もが穏やかな最期を迎えられるように、リビング・ウイユの普及啓発と受容協力医師の獲得に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。（宮本礼子）

「尊厳死協会の人生会議」13回と14回は、7月13日

（火）、9月14日（火）に札幌エルプラザ4階中研修室で午前10時～12時に行います（要申込・先着順）。講師は顧問の江端英隆医師。テーマは「コロナおよびALSと尊厳死」（13回）、「コロナと尊厳死および肺移植について」（14回）。問い合わせは、岩崎（090-1386-2025）まで。

※ホームページで動画セミナーも行います。テーマは①認知症の終末期と尊厳死、②日本と欧米諸国の高齢者終末期医療の違い。講師は支部長の宮本礼子医師。

東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.or.jp

第39回「リビング・ウイユ交流サロン 支部長との電話・メール交流・相談会」

日程◎ 7月16日（金）午後2時～3時半

流れ◎ 7月14日（水）まで東北支部宛に「相談の件」と連絡、電話番号かメールアドレス、「相談内容の骨子」をお知らせください。電話相談はお申込み順です。7月16日に支部長が電話

を差し上げるおおよその時刻をお知らせします。当日は上記の時刻に電話を差し上げ、ご相談の質問にお答えします（原則15分以内）。メールでのお申し込みはtohoku@songenshi-kyokai.or.jp宛て。件名に「相談会」とご記入ください。20日以降にご返事します。専門的なご質問には、支部理事の専門家の意見を聞いてお答えします。

なお、お電話内容を正確に理解するため、通話を録音しますのでご了承ください。

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.or.jp

| サロンin本郷

「尊厳死」や「リビングウイユ」などについて語り合ひましょう。参加は無料です。コロナ禍の影響によっては中止することもありますので、事前の確認・予約をお願いします。7月9日（金）、24日（土）、9月10日（金）、25日（土）、10月8日（金）、23日（土）。いずれも午後1時半～3時。会場は支部事務所（日本尊厳死協会内）。

※「サロン」はオンラインでも月に1回開催しています。日時、申し込み等についてはホームページをご覧ください。参加は無料です。

オンライン講演会

8月28日（土）午後2時半～4時に「最期まであなたらしく過ごすために」のテーマで、鈴木央医師（鈴木内科医院院長、全国在宅療養支援診療所連絡会副会長、支部理事）が講演します。

7月28日（水）からメールで申し込みを受け付けますので、「8月28日オンライン講演会参加」、お名前、Zoom招待状送付先のメールアドレスを明記のうえ、kantou@songenshi-kyokai.or.jpまでお申し込みください。定員80人（先着順）。予定に変更が生じた場合は個別にご連絡します。

私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

- ☐自宅 ☐病院 ☐介護施設 ☐分からない
☐その他（ ）

2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）

- ☐できる限り自立した生活をする ☐大切な人との時間を十分に持つこと
☐弱った姿を他人に見せたくない ☐食事や排泄が自力でできること
☐静かな環境で過ごすこと ☐回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい
☐その他（ ）

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐経鼻チューブ栄養 ☐中心静脈栄養 ☐胃ろう ☐点滴による水分補給
☐口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう

4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐心肺蘇生 ☐人工呼吸器 ☐気管切開 ☐人工透析 ☐酸素吸入
☐輸血 ☐昇圧剤や強心剤 ☐抗生物質 ☐抗がん剤 ☐点滴

5. その他の希望

【用語の説明】

- 心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。
- 人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。
- 胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

2020年度「電話医療相談」の結果まとまる コロナ禍でのメンタル相談の増加と 受容医への期待と要望



「コロナ禍の中で日常生活に張り
がなくなっている。持病の膠原病
の数値は異常ないが、倦怠感もあ
り自律神経失調症と言われた。解
消法が見つからない」（76歳、女性）

（461件、500件）に比べ微
増傾向です。内容項目別件数は（相
談1件につき複数の内容項目にわ
たる）は1313件で、これも過
去2年（1006件、1182件）
に比べ、増えています。

自粛生活での閉塞感

「74歳の妻は長年、原因不明の慢
性疼痛で苦しんでいる。モルヒネ
を試してみたいが、近くの受容医
で緩和ケアを担当しているクリニ
ックを紹介してほしい」（88歳、
男性）

2020年4月から2021
年3月までの「電話医療相談」は、
まさにコロナのただ中であつての
医療相談でした。日本尊厳死協会
では相談員スタッフ（看護師2人）
が交代で対応していますが、新型
コロナウイルス感染拡大に伴う緊
急事態宣言により、4月初めから
5月初めまでの約1か月間は相談
を休止し、その後は在宅ワークに
切り替えて相談にあたり、現在に
至っています。

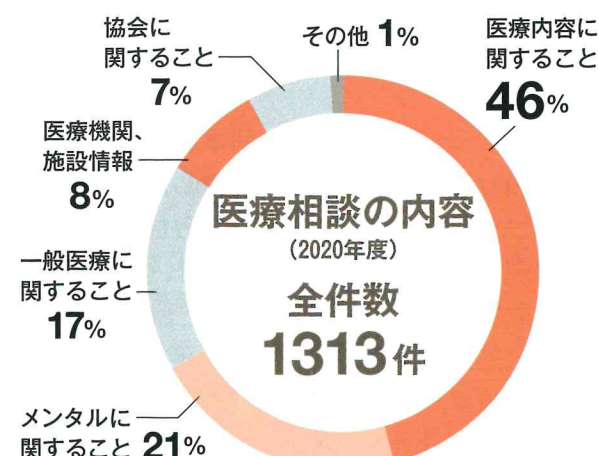
相談内容を項目別でみてみる
と、「（尊厳死についての）医療内
容に関すること」が全体の半数近
い604件（46%）、次いでメン
タル相談が271件で約21%。

「99歳の母は、施設で『看取りの
段階に入っている』と言われ、週
に1～2回の点滴をおこなってい
る状態。家族や兄弟は点滴を中止
することに同意し、施設側も『い
つでも外す』と言うが、コロナ禍
で面会制限がある中での看取りは
辛い。どうしたらいいか」（70歳、
男性）

このほど、その2020年度
の相談結果がまとまりました。相
談件数は557件で、過去2年

後で変わりますが、メンタル相
談は、過去2年（13%、19%）に
比べて増えています。「コロナ感
染への漠然とした不安と恐れ、自
粛生活での閉塞感・孤立感、身体
の衰え、受診控えなど訴えはさま
ざま。会員数に対してメンタル相

談者は1%にも満たないけれど、
尊厳死協会を心の拠り所とら
え、「話したい、聴いてほしい」
の思いが切実に伝わってきました
」と、この1年を相談員スタッ
フは振り返ります。
こうしたメンタル相談の増加と
ともに感じたこととして、冒頭の
相談例にもあるように、「尊厳死
協会の趣旨に賛同し、尊厳死を尊
重してくれる受容医への期待と要
望がいかに大きいかということ
でした」と相談員スタッフは話して
います。



●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@sogenshi-kyokai.or.jp
ホームページ
https://www.sogenshi-kyokai.or.jp/
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

事務所は5月末日で閉鎖となりました。
今後のお問い合わせは本部まで。
フリーダイヤル 0120-211-315

●東北支部

〒980-0811
仙台市青葉区一番町1-12-39
旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海北陸支部

〒453-0832
名古屋市千区乾出町2-7
正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●関西支部

〒532-0003
大阪市淀川区宮原4-1-46
新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024
広島市中区西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒760-0076
高松市観光町538-2
あさひクリニック内
TEL 087-833-6356
FAX 087-833-6357

●九州支部

事務所は3月末日で閉鎖となりました。
今後のお問い合わせは本部まで。
フリーダイヤル 0120-211-315

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウィル Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(2017年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ
り、既に死が迫っていると診断された場合に
は、ただ単に死期を引き延ばすための延
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるために
は、麻薬などの適切な使用により十分な緩和
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ
てください。

以上、私の要望を忠実に果たしてくださった方々
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要
望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にあ
ることを付記いたします。

リビング・ ウィルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ
りが近づいたら延命措置を望ま
ないで、自然の摂理にゆだねて
寿命を迎えるご自分の意思を表
した「リビング・ウィル」を発
行、その普及に努めています。

現在約10万人の方々が「リビ
ング・ウィル」を持ち、安心し
た日々を送っています。自然の
まま寿命を迎えることは、最期
の日々をよりよく生きること
であり、今を健やかに生きるこ
とにつながります。

お友だちやお知り合いに協会
や「リビング・ウィル」のことを
お伝えいただければと願ってい
ます。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者にご連絡ください

年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動
引き落とし)があります。利用には諸手続きが必要です。
ご希望の方は本部事務局までご連絡をお願いします。次の要
領で実施しております。なお郵便局窓口では申し込みません。

- 対 象 ▶ ご希望の会員
- 払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日
祝日の場合は翌営業日に引き落とし)
- 払 込 額 ▶ 会費相当額
- 手 数 料 ▶ 1回の払込に165円(150円+税)の
ご負担があります
- 取扱
金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、
ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して
あります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も
記入して下さい。なお振込手数料は郵便局窓口が203円、
郵便局ATMが152円、コンビニが66円です。



『あじさい映える』
今号の1枚

●テレビドラマ「北の国から」は、
脚本家・倉本聰さんの代表作で
すが、日本のテレビドラマ史上、
類例のない、長期大河ドラマ
といっているでしょう。そのス
タッフとして、あのログハウス
を手造りした「コージさん」の
最期のあり方について、協会顧
問でもある倉本さんが緊急提言
を寄せられました。この提言は、
翌月の国会でも取り上げられ、
終末期医療のあり方についての
質疑がなされています。
三年ほど前の会報(168
号)の巻頭インタビューを思い
出します。倉本さんが、これまで
の自らの「死と別れ」について
訥々と語りました。「生きる望み
を失ったとき人間は自裁しても
いいと思う」「目的がなくなれば長
生きするというのは僕にはよく
わからない」……今も、そんな
言葉が耳に残ります。今回の緊
急提言にも「思考のあやまり」
「哲学の欠如」といった強い文言
があります。この提言は、インタ
ビューの続編でもあるのでしょ
う。

※表紙の下方にQRコードを付けましたので、ご利用下さい。

Living Will 目次

— 会報2021年7月 No.182 —

- 02 巻頭インタビュー
映画監督 高橋伴明さん
女優 高橋恵子さん ご夫妻
 - 07 法制化に向け議員連盟再スタート
 - 08 倉本 聡さんが緊急提言
「そしてコージは死んだ」
 - 14 連載「四季の歌」ウミ
 - 16 21年度事業計画・予算決まる
 - 18 LWのひろば
 - 20 支部活動・報告
2021 夏～秋
 - 22 私の希望表明書
 - 23 20年度「電話医療相談の結果」
 - 24 LW受容協力医師のリスト
 - 25 寄付された方々
 - 26 事務局から／編集後記／目次
 - 27 終末期医療における事前指示書／
本部・支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員：9万9969人
(2021年6月4日現在)

次号は、
2021年10月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●テレビドラマ「北の国から」は、
脚本家・倉本聰さんの代表作で
すが、日本のテレビドラマ史上、
類例のない、長期大河ドラマ
といっているでしょう。そのス
タッフとして、あのログハウス
を手造りした「コージさん」の
最期のあり方について、協会顧
問でもある倉本さんが緊急提言
を寄せられました。この提言は、
翌月の国会でも取り上げられ、
終末期医療のあり方についての
質疑がなされています。
三年ほど前の会報(168
号)の巻頭インタビューを思い
出します。倉本さんが、これまで
の自らの「死と別れ」について
訥々と語りました。「生きる望み
を失ったとき人間は自裁しても
いいと思う」「目的がなくなれば長
生きするというのは僕にはよく
わからない」……今も、そんな
言葉が耳に残ります。今回の緊
急提言にも「思考のあやまり」
「哲学の欠如」といった強い文言
があります。この提言は、インタ
ビューの続編でもあるのでしょ
う。